◇ 事務局より学術検証委員会の「市長報告」について説明がありました

現在、工事が中断している「道路」について、
その中断の「きっかけ」と「検証委員会の報告内容」についてお知らせします。

工事中断のきっかけ

平成21年9月に市長も参加して対話集会が開かれ（ワーキングのススメNo.43で報告）、その場で河村市長から「ホタルと道路が共存できるのか。子供が事故にあう状況なのか。これを科学的に検証したい。」との発言がありました。

これをきっかけとして、市長の指示で、工事を中断して学術検証委員会をつくり科学的な検証を行うことになりました。

学術検証委員会とは

生物、地質、水、交通、環境など各専門分野の9人の学者を委員として平成22年1月に設立され、2月から10月末までに計6回の委員会が開催されました。
12月9日に河村市長に検証結果の報告書が提出されました。

検証委員会の報告

市民生活の質の向上と維持のためには、経済、生活・教育・文化、快適性・リラクゼーション、安心・安全、環境負荷など、さまざまな観点から考えて総合的な市の基本計画をつくることが必要である。

この５つの観点から「この道路ができるとどうなるか」を検証すると、

経済の観点

- 周辺道路の混雑の度合いは緩和され、総走行時間は短縮される。
- 新たな道路や交差点で渋滞が発生するかもしれないが、それを事前に予測することはむずかしい。

環境負荷の観点

- 車から出るCO_2の量は、渋滞が減ることで減少するが、新たな車利用により増えることも考えられ、CO_2の増減予測はむずかしい。

快適性･リラクゼーションの観点

- ヒメボタルの生息環境が劣化するが、個体数がどれくらい減るかは予測できない。
- 緑地が本来の植生帯になっていくには、人が手を入れていく必要がある。
- 環境への影響を予測することは、むずかしく、生態的調査も現実的ではない。

生活･教育･文化の観点

- 緑地へのアクセスがよくなる。
- これまで蓄積された自然生態系の測定データが継続してモニター調査することで、環境教育に活用できる。
- 緑地の総合的な整備利用計画を作ることが必要である。

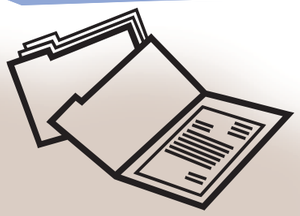
安心・安全の観点

- 周辺道路を走行する救急車や消防車など緊急車両の走行時間が短くなる。
- 渋滞を避けて細い道に入ってくる車は減るだろうが、どれぐらい減るかの予測はむずかしい。
- 土砂が流れ出したりしなくなるので、緑地全体の安全性は高まる。

これらの検証結果から、委員会としての評価は

道路ができることでの
　プラス効果　　→　交通輸送の効率が改善される。
　マイナス効果　→　生物相とくにヒメボタルの生息環境を劣化させる。

- 総合的に適切に評価するには、より詳細な交通需要予測や緑地の生態系に関わる様々な指標に関する精度の高いデータの蓄積が必要。
- マイナス効果を軽減するためには、事態の推移を正しく分析しながらその対策を施す必要があり、その検討は道路建設事業の実施者により、別途進められなければならない。



今後は･･･

名古屋市東南部では、名古屋第二環状自動車道（名二環）や地下鉄が開通し、交通の流れが変化します。現在の道路の渋滞がどうなるかといった影響を調査し、地元の方々のご意見を伺いながら、検証委員会の結果とあわせて総合的に判断してまいります。

※ 報告書全文は、裏面の問合せ先ホームページよりご覧いただけます。